

# 米をめぐる関係資料

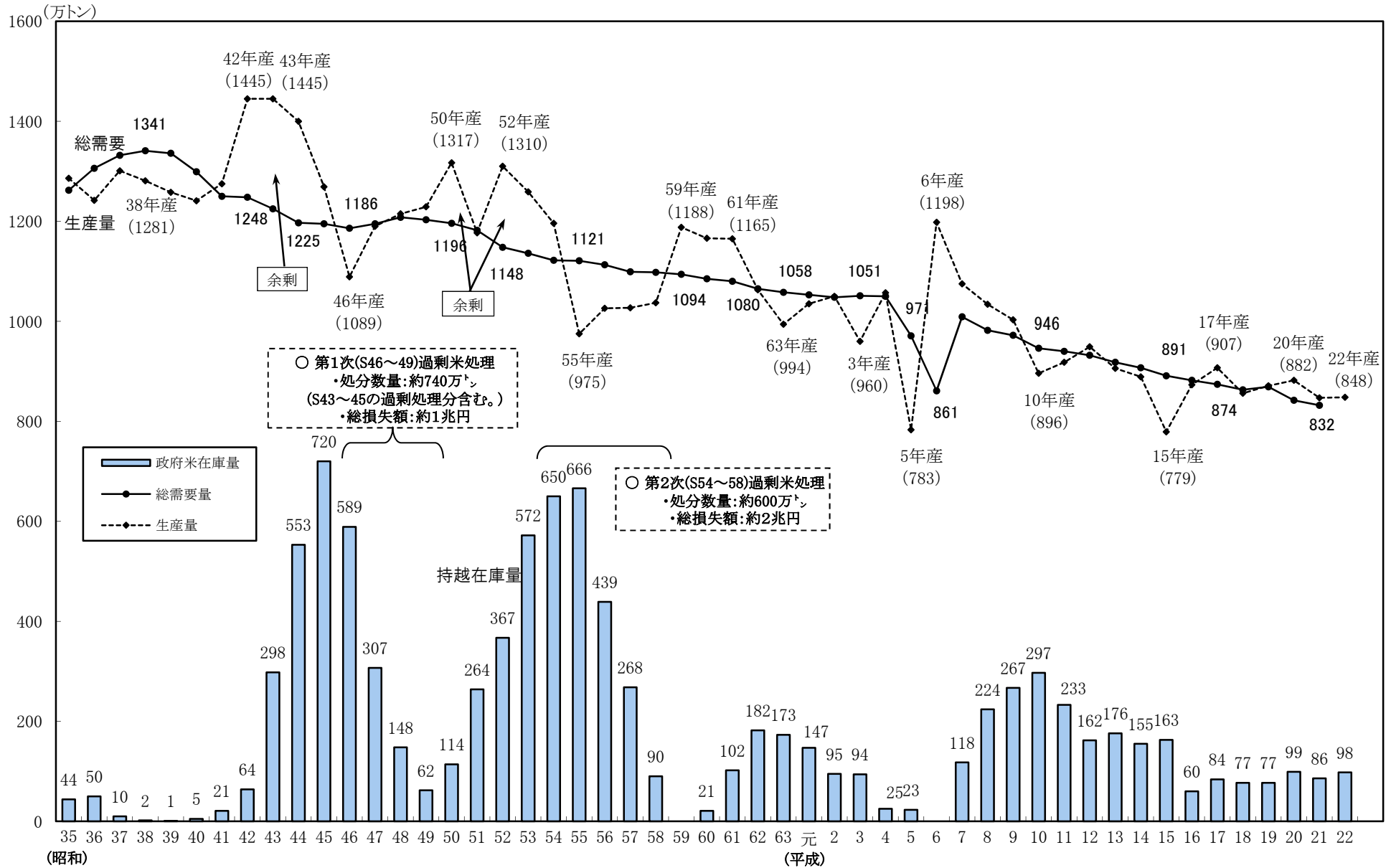
平成 2 3 年 5 月

**農林水産省**

# 目 次

1	米の全体需給の動向	1	20	商業用のコメの輸出数量等の推移	26
2	米の流通の状況(16～20年産米)	2	21	中国向け米輸出拡大に向けた取組	27
3	家庭における米購入量の推移	3	22	平成23年産米の都道府県別生産数量目標の設定	28
	(参考1) 1世帯当たりの購入量の推移(米・パン・めん類)	4	23	東日本大震災に伴う平成23年産米の生産数量目標の県間調整の結果	31
	(参考2) 1世帯当たりの支出金額の推移(食料)	5	24	全国の需給調整の取組状況の推移	32
4	主食用米の販売動向(米穀卸売業界調査)	6	25	平成22年産米における都道府県別の需給調整の取組状況	33
5	外食の動向	7	26	販売目的で作付けした水稲の作付面積規模別農家数	34
6	米消費拡大の取組	9	27	戸別所得補償モデル対策(平成22年度)の支払実績(速報値)	35
	(参考) 米消費拡大の新たな動き	12	28	変動部分の交付単価(平成22年度)	38
7	米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移	13		(参考) 平成22年産米と平成21年産米の相対取引価格の比較(速報)	39
8	平成22年産米の相対取引価格の推移	14	29	戸別所得補償制度の概要(平成23年度)	41
9	平成22年産米の相対取引価格	15	30	米の所得補償交付金(平成23年度)	42
10	平成22年産水稲うるち玄米の1等比率	16	31	米価変動補てん交付金(平成23年度)	43
11	政府及び民間流通における6月末在庫の推移	17	32	戸別所得補償制度(平成23年度)の加入申請状況(平成23年4月30日現在)	44
12	政府備蓄米の在庫の状況	18	33	米の作付規模別10a当たり生産費	45
13	需要実績及び民間在庫の推移	19	34	収入減少影響緩和対策	48
14	政府備蓄米の主食用販売状況	20	35	米粉用米の動向	49
15	棚上備蓄への円滑な移行準備	21	36	飼料用米の動向	50
16	23年産米の政府備蓄米の買入(事前契約)	22	37	平成20～22年産の新規需要米等の用途別取組状況	51
17	過剰米対策基金(321億円)の活用	23	38	米トレーサビリティ法の概要・スケジュール	52
18	MA米の輸入状況	24	39	玄米及び精米品質表示基準の見直しの理由及び内容	53
19	MA米の販売状況	25			

# 1 米の全体需給の動向(昭和35年～)



注1. 政府米在庫量は、外国産米を除いた数量である。  
 2. 在庫量は、各年10月末現在である。ただし、平成15年以降は各年6月末現在である。  
 3. 総需要量は、食料需給表における国内消費仕向量である。ただし、平成5年以降は国内消費仕向量のうち国産米のみの数量である。  
 4. 平成12年10月末持越在庫は、「平成12年緊急総合米対策」による援助用隔離等を除いた数量である。  
 5. 生産量は、水稻と陸稲の収穫量の合計である。

## 2 米の流通の状況(16～20年産米)

### 【生産段階】

(単位:万トン)

年産	生産量																	
			出荷・販売		農家消費		無償譲渡		10a未満		その他		加工用米		もち米		減耗	
			数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合
16	872	100.0%	636	72.9%	75	8.6%	55	6.3%	50	5.7%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	71	7.8%	55	6.1%	57	6.3%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	67	7.8%	55	6.4%	43	5.0%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	63	7.2%	52	6.0%	59	6.8%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	61	6.9%	53	6.0%	58	6.6%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%

### 【出荷・販売段階】

年産	出荷・販売																	
			農協				全集連系業者				その他業者		生産者直接販売					
			販売委託		直販		販売委託		直販									
数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	
16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	59	6.8%	167	19.2%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	59	6.5%	167	18.4%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	58	6.8%	169	19.8%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	65	7.5%	167	19.2%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	59	6.7%	165	18.7%

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に作成

注：1) 10a未満は、「水稲収穫量」と「生産者の米穀現在高等調査」等の差引であり、この中から一部生産者直販やその他業者販売により流通する可能性がある。

2) 生産段階には、このほか集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産米8万トン、20年産米10万トン）がある。

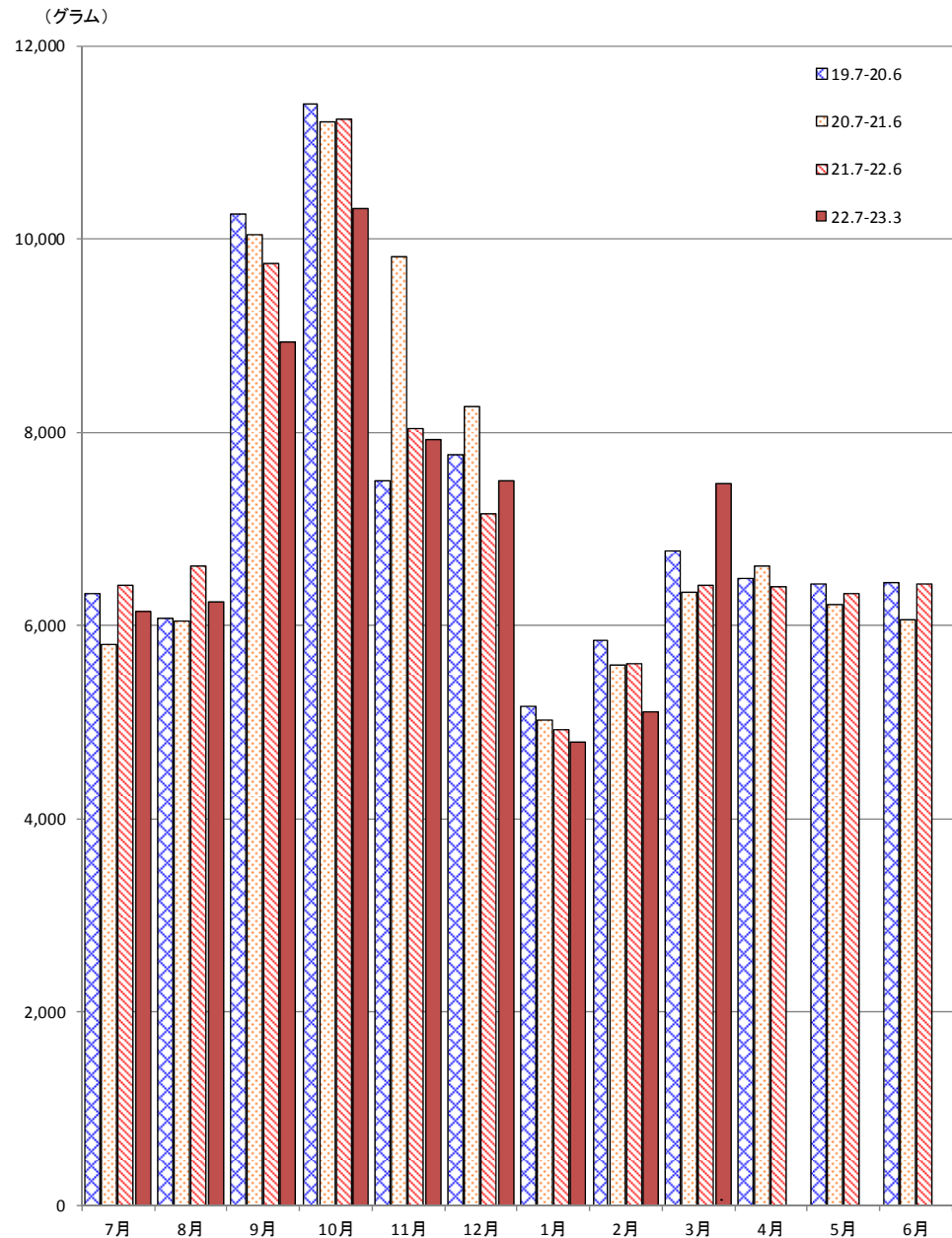
3) ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

### 3 家庭における米購入量の推移

(単位:グラム)

	月間購入量	対前年同月比	年間累計	対前年比
H19.7	6,330	0.8%	86,450	2.5%
H19.8	6,080	0.3%		
H19.9	10,250	14.8%		
H19.10	11,390	▲6.0%		
H19.11	7,500	4.0%		
H19.12	7,770	▲0.4%		
H20.1	5,160	4.7%		
H20.2	5,840	2.1%		
H20.3	6,770	6.1%		
H20.4	6,480	1.9%		
H20.5	6,430	1.9%		
H20.6	6,450	3.2%		
H20.7	5,800	▲8.4%	87,050	0.7%
H20.8	6,050	▲0.5%		
H20.9	10,050	▲2.0%		
H20.10	11,210	▲1.6%		
H20.11	9,820	30.9%		
H20.12	8,270	6.4%		
H21.1	5,020	▲2.7%		
H21.2	5,590	▲4.3%		
H21.3	6,340	▲6.4%		
H21.4	6,620	2.2%		
H21.5	6,220	▲3.3%		
H21.6	6,060	▲6.0%		
H21.7	6,410	10.5%	85,300	▲2.0%
H21.8	6,610	9.3%		
H21.9	9,750	▲3.0%		
H21.10	11,240	0.3%		
H21.11	8,040	▲18.1%		
H21.12	7,150	▲13.5%		
H22.1	4,920	▲2.0%		
H22.2	5,600	0.2%		
H22.3	6,420	1.3%		
H22.4	6,400	▲3.3%		
H22.5	6,330	1.8%		
H22.6	6,430	6.1%		
H22.7	6,140	▲4.2%	64,410	▲2.6%
H22.8	6,240	▲5.6%		
H22.9	8,930	▲8.4%		
H22.10	10,310	▲8.3%		
H22.11	7,920	▲1.5%		
H22.12	7,500	4.9%		
H23.1	4,790	▲2.6%		
H23.2	5,110	▲8.8%		
H23.3	7,470	16.4%		

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)



# (参考1) 1世帯当たりの購入量の推移(米・パン・めん類)

(単位:g、%)

	米		パン		めん類	
		対前年 同月比		対前年 同月比		対前年 同月比
平成21年1月	5,020	▲2.7	3,521	▲2.5	2,855	8.1
2月	5,590	▲4.3	3,496	▲3.0	2,688	▲4.0
3月	6,340	▲6.4	4,032	▲2.1	3,122	4.4
4月	6,620	2.2	3,946	▲0.7	2,851	▲0.0
5月	6,220	▲3.3	4,095	4.4	3,185	6.3
6月	6,060	▲6.0	3,826	▲0.4	3,074	▲2.8
7月	6,410	10.5	3,848	4.9	3,457	2.1
8月	6,610	9.3	3,755	6.9	3,125	▲0.6
9月	9,750	▲3.0	3,880	12.0	2,530	▲0.9
10月	11,240	0.3	3,939	7.5	2,879	7.3
11月	8,040	▲18.1	3,736	6.1	2,994	6.1
12月	7,150	▲13.5	3,568	0.1	3,742	2.0
平成22年1月	4,920	▲2.0	3,673	4.3	2,966	3.9
2月	5,600	0.2	3,484	▲0.3	2,778	3.3
3月	6,420	1.3	4,119	2.2	3,135	0.4
4月	6,400	▲3.3	3,989	1.1	2,937	3.0
5月	6,330	1.8	3,954	▲3.4	3,000	▲5.8
6月	6,430	6.1	3,790	▲0.9	3,038	▲1.2
7月	6,140	▲4.2	3,850	0.1	3,503	1.3
8月	6,240	▲5.6	3,612	▲3.8	3,268	4.6
9月	8,930	▲8.4	3,663	▲5.6	2,534	0.2
10月	10,310	▲8.3	3,979	1.0	2,914	1.2
11月	7,920	▲1.5	3,700	▲1.0	3,020	0.9
12月	7,500	4.9	3,680	3.1	3,906	4.4
平成23年1月	4,790	▲2.6	3,656	▲0.5	2,875	▲3.1
2月	5,110	▲8.8	3,573	2.6	2,763	▲0.5
3月	7,470	16.4	4,088	▲0.8	3,447	10.0

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

# (参考2) 1世帯当たりの支出金額の推移(食料)

(単位:円、%)

	食料																			
	米		パン		めん類		スパゲッティ		カップめん		菓子類		調理食品		外食		ハンバーガー			
	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比		
12年	887,453	—	38,920	—	27,209	—	17,060	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
13年	861,235	▲3	37,045	▲5	26,062	▲4	16,649	▲2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
14年	854,518	▲1	35,292	▲5	26,455	+2	16,754	+1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
15年	838,918	▲2	35,903	+2	26,871	+2	16,473	▲2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
16年	835,676	▲0	35,801	▲0	27,307	+2	16,121	▲2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
17年	824,394	▲1	31,676	▲12	25,974	▲5	15,197	▲6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
18年	891,439	+8	30,968	▲2	26,560	+2	16,294	+7	1,021	—	2,952	—	75,463	—	101,905	—	159,676	—	3,506	
19年	901,601	+1	30,680	▲1	27,097	+2	16,415	+1	1,082	+6	2,941	▲0	76,160	+1	100,910	▲1	164,860	+3	3,785	
20年	905,556	+0	31,229	+2	28,127	+4	17,986	+10	1,357	+25	3,015	+3	78,970	+4	98,567	▲2	164,894	+0	4,046	
21年	896,129	▲1	30,496	▲2	28,966	+3	18,423	+2	1,400	+3	3,293	+9	80,403	+2	98,469	▲0	161,314	▲2	4,352	
22年1月	69,851	+0	1,815	▲0	2,255	▲0	1,369	+2	103	▲4	287	+8	6,395	+3	7,786	+2	14,723	+5	423	
2月	65,125	▲1	1,980	▲4	2,231	▲4	1,281	+1	106	▲6	289	+11	6,388	▲1	7,320	+1	11,510	+2	339	
3月	72,571	▲1	2,248	▲6	2,518	▲2	1,447	▲1	124	▲11	316	+6	7,189	▲2	7,925	+1	13,422	+1	418	
4月	69,356	▲2	2,259	▲7	2,468	▲2	1,364	▲4	116	▲8	271	+4	6,199	▲2	7,641	+1	12,413	+0	351	
5月	74,946	▲3	2,282	▲5	2,507	▲4	1,504	▲8	112	▲13	262	▲0	6,727	▲3	7,920	+2	14,786	▲2	354	
6月	70,176	▲2	2,285	+2	2,402	▲1	1,612	▲2	98	▲11	223	▲3	5,919	▲3	7,597	+2	11,738	▲5	284	
7月	74,628	▲0	2,183	▲6	2,365	▲3	1,895	▲4	97	▲12	222	▲6	6,410	±0	8,834	+2	13,235	+1	397	
8月	78,692	▲2	2,114	▲13	2,250	▲5	1,680	▲1	101	▲20	247	▲5	7,547	▲1	8,802	+2	15,535	▲3	498	
9月	70,544	▲2	2,927	▲8	2,237	▲3	1,280	+0	104	▲6	258	▲2	5,806	▲5	7,970	+1	12,306	▲7	337	
10月	73,492	▲0	3,305	▲12	2,381	▲2	1,384	▲1	111	+3	302	+4	5,972	▲1	8,485	+3	12,916	+2	343	
11月	71,295	▲2	2,692	▲4	2,268	▲2	1,368	▲4	100	▲7	302	+3	5,898	▲3	8,135	+0	12,813	▲2	335	
12月	94,091	▲1	2,521	▲4	2,294	▲4	1,863	▲1	108	▲4	371	▲1	8,411	▲3	11,451	+1	14,831	+0	396	
23年1月	68,124	▲2	1,585	▲13	2,192	▲3	1,342	▲2	91	▲12	300	+5	6,078	▲5	7,892	+1	14,073	▲4	439	
2月	65,146	+0	1,788	▲10	2,193	▲2	1,258	▲2	105	▲1	280	▲3	6,252	▲2	7,648	+4	11,558	+0	347	
3月	70,744	▲3	2,544	+13	2,567	+2	1,675	+16	143	+15	445	+41	6,633	▲8	8,194	+3	11,271	▲16	343	

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

# 4 主食用米の販売動向(米穀卸売業界調査)

## [調査の概要]

全国米穀販売事業共済協同組合が、米穀の販売・需要動向を多角的に把握することを目的として、同組合会員企業を対象に実施。四半期ごとに継続的に調査。

- アンケート発送数 184会員 (うち回答数34会員)
- 調査期間 平成23年5月11日(水)～ 5月18日(水)

### 1. 現在(23年4月)の米販売量(前年同月との比較)

集計結果	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
	100%	<b>32.4%</b>	23.5%	17.6%	5.9%	20.6%

―販売先別―	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
大手スーパー	100%	<b>28.6%</b>	19.0%	<b>28.6%</b>	14.3%	9.5%
中小スーパー	100%	19.4%	<b>29.0%</b>	19.4%	9.7%	22.6%
米穀専門店	100%	19.4%	6.5%	<b>35.5%</b>	22.6%	16.1%
その他	100%	26.3%	0.0%	<b>21.1%</b>	31.6%	21.1%

外食向け	100%	7.1%	25.0%	<b>39.3%</b>	10.7%	17.9%
中食向け	100%	19.4%	19.4%	<b>38.7%</b>	12.9%	9.7%
給食向け	100%	3.6%	17.9%	<b>53.6%</b>	17.9%	7.1%

### 2. 米販売の動き: 過去3ヶ月前との比較 / 3ヶ月後の見通し

#### (1) 過去3ヶ月前(23年1月)と比較した23年4月の動き

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100.0%	17.6%	<b>41.2%</b>	14.7%	11.8%	14.7%	58.8

#### (参考) 前回調査 22年10月と比較した23年1月の動き

100.0%	0.9%	19.6%	34.6%	<b>35.5%</b>	9.3%	41.8
--------	------	-------	-------	--------------	------	------

#### (2) 23年4月から3ヶ月後(23年7月頃)の見通し

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100%	5.9%	14.7%	<b>44.1%</b>	32.4%	2.9%	47.1

#### (参考) 前回調査 23年1月から3ヶ月後(23年4月頃)の見通し

100%	2.8%	<b>36.4%</b>	35.5%	24.3%	0.9%	54.0
------	------	--------------	-------	-------	------	------

\*1. 太字は、最頻値。

2. DI (diffusion index) の算出方法: 内閣府で発表している「景気ウォッチャー調査」方式を採用した。具体的には、5つの回答選択肢に均等に0~1の評価点を与え、各回答の構成比に対応するそれぞれの評価点を乗じ、それらの合計を指数(%ポイント)としてDI値を算出。それが50の場合は横ばい(現状維持)を示す。0に近づくほど販売が低迷傾向にあることを示し、逆に100に近づくほど販売が好調傾向であることを示す。

(算出例)	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
評 価 点 A	1	0.75	0.5	0.25	0
結 果 ( 構 成 比 ) B	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各 DI 値 C = A × B	17.8	15	10	5.6	0
D I 値 ( 合 計 )	48.4 → 販売は低迷傾向				



## 5 外食の動向 ②

### 2. 全店時系列データ(前年同月比)

#### a. 売上高前年同月比

	10年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11年1月	2月	3月
全 体	98.4%	99.5%	98.3%	97.7%	102.5%	101.6%	100.3%	102.7%	100.2%	101.9%	100.2%	101.5%	89.7%
ファーストフード	98.9%	101.8%	99.3%	100.3%	106.5%	103.6%	101.4%	102.7%	99.7%	103.6%	102.1%	102.9%	91.7%
ファミリーレストラン	98.9%	98.3%	98.4%	95.3%	98.4%	100.0%	99.8%	103.5%	100.9%	100.1%	98.8%	100.9%	90.6%
パブレストラン/居酒屋	96.1%	93.4%	93.4%	94.7%	97.4%	98.8%	98.2%	99.9%	101.1%	100.0%	96.3%	98.4%	80.2%
ディナーレストラン	97.2%	100.0%	97.8%	94.7%	102.5%	97.5%	93.4%	104.2%	99.8%	102.1%	99.2%	100.5%	80.5%
喫茶	97.3%	98.4%	99.8%	99.5%	101.1%	102.1%	102.2%	101.2%	100.8%	100.2%	99.1%	99.7%	89.3%
その他	93.0%	95.7%	94.8%	89.7%	96.1%	94.9%	94.7%	101.3%	97.0%	98.4%	96.3%	95.8%	79.7%

#### b. 店舗数前年同月比

	10年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11年1月	2月	3月
全 体	100.0%	99.8%	99.6%	99.1%	98.8%	98.8%	98.8%	98.8%	98.7%	99.0%	99.1%	99.1%	99.1%
ファーストフード	101.3%	100.5%	100.2%	99.5%	99.2%	99.3%	99.4%	99.4%	99.1%	99.2%	99.2%	99.2%	99.3%
ファミリーレストラン	98.0%	98.2%	98.5%	98.0%	97.7%	97.5%	97.1%	97.1%	97.5%	98.3%	98.4%	98.5%	98.9%
パブレストラン/居酒屋	100.0%	100.8%	100.7%	101.8%	100.4%	101.4%	100.8%	102.2%	101.2%	101.3%	102.7%	101.8%	99.8%
ディナーレストラン	98.5%	97.3%	97.3%	97.3%	98.5%	97.5%	97.2%	97.7%	96.5%	96.3%	97.6%	95.8%	94.4%
喫茶	99.8%	100.2%	99.6%	99.9%	100.2%	99.4%	100.1%	98.1%	98.3%	98.6%	98.5%	98.8%	99.0%
その他	97.2%	99.2%	97.7%	94.3%	93.8%	96.8%	97.4%	97.8%	95.4%	98.3%	95.2%	97.5%	96.7%

#### c. 利用客数前年同月比

	10年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11年1月	2月	3月
全 体	101.3%	102.9%	101.4%	99.4%	102.9%	103.6%	103.9%	104.4%	101.5%	102.7%	100.8%	103.6%	91.0%
ファーストフード	101.6%	105.2%	101.8%	100.1%	104.2%	104.3%	106.0%	105.4%	101.8%	104.1%	102.5%	106.2%	91.7%
ファミリーレストラン	101.9%	100.1%	101.5%	97.9%	100.6%	102.2%	98.8%	103.5%	101.0%	100.5%	98.2%	100.2%	91.1%
パブレストラン/居酒屋	97.5%	92.3%	94.8%	97.4%	100.3%	101.1%	99.1%	101.4%	102.6%	100.8%	97.3%	98.1%	81.8%
ディナーレストラン	95.9%	98.1%	97.5%	93.8%	101.1%	98.7%	94.5%	103.1%	99.1%	99.7%	95.9%	98.2%	81.7%
喫茶	99.2%	99.2%	101.4%	101.0%	102.3%	105.8%	103.1%	100.7%	101.6%	100.3%	99.3%	99.4%	90.3%
その他	97.0%	100.9%	98.9%	88.8%	96.2%	94.8%	96.6%	101.3%	93.4%	97.8%	94.4%	93.7%	77.7%

#### d. 客単価前年同月比

	10年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11年1月	2月	3月
全 体	97.2%	96.8%	97.0%	98.4%	99.6%	98.1%	96.6%	98.3%	98.7%	99.2%	99.4%	98.0%	98.6%
ファーストフード	97.3%	96.8%	97.6%	100.1%	102.2%	99.4%	95.6%	97.4%	97.9%	99.6%	99.6%	96.9%	100.0%
ファミリーレストラン	97.1%	98.2%	96.9%	97.4%	97.8%	97.8%	101.1%	100.0%	99.9%	99.6%	100.6%	100.7%	99.4%
パブレストラン/居酒屋	98.6%	101.2%	98.6%	97.3%	97.1%	97.7%	99.1%	98.5%	98.5%	99.3%	99.0%	100.3%	98.0%
ディナーレストラン	101.4%	101.9%	100.3%	100.9%	101.4%	98.8%	98.8%	101.1%	100.7%	102.4%	103.4%	102.3%	98.6%
喫茶	98.0%	99.2%	98.5%	98.5%	98.9%	96.4%	99.1%	100.5%	99.2%	99.9%	99.7%	100.3%	98.9%
その他	95.9%	94.9%	95.8%	101.0%	99.8%	100.1%	98.1%	100.0%	103.9%	100.6%	101.9%	102.2%	102.5%

(社団法人日本フードサービス協会ホームページより)

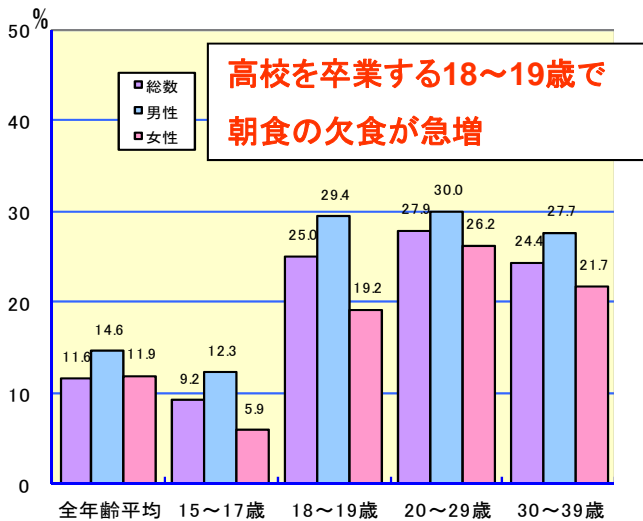
## 6 米消費拡大の取組 ①

### 「めざましごはんキャンペーン」の展開

朝食欠食の改善や米を中心とした日本型食生活の普及・啓発により食料自給率向上に資するため、各種広報媒体を活用した情報提供を実施。

また、食品関係企業、団体等(約4千社)と連携し、官民挙げてのキャンペーンを実施。

キャンペーン参加企業は、ロゴマークの商品貼付や、ポスター、CM映像等を活用し、米関連商品と連動した販促活動を実施。



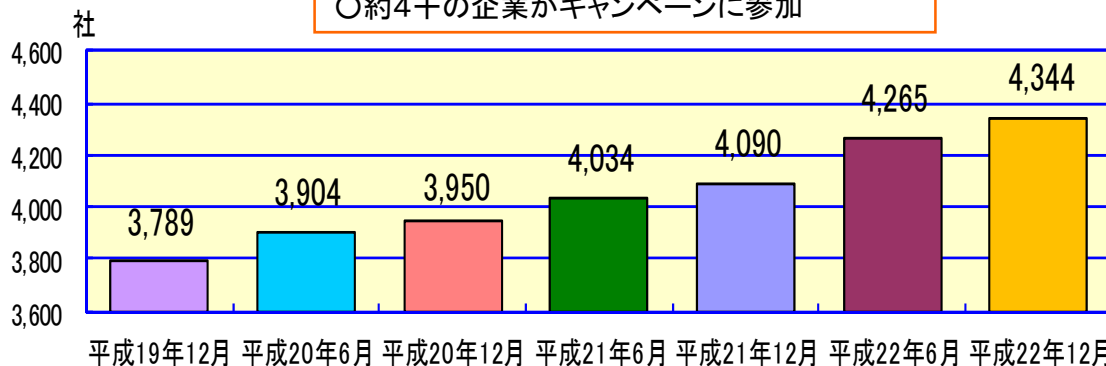
高校を卒業する18~19歳で  
朝食の欠食が急増

「早寝早起き朝ごはん」国民運動とも連携



資料:厚生労働省「平成20年国民健康・栄養調査」

○約4千の企業がキャンペーンに参加



### めざましごはんでジンセイ変わるよ!

AKB48のパワーと集中力のもと朝ごはん!



やる気が出る! 頭が働く! 実証、朝ごはん効果!



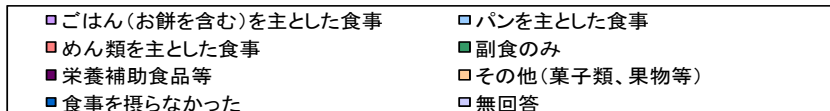
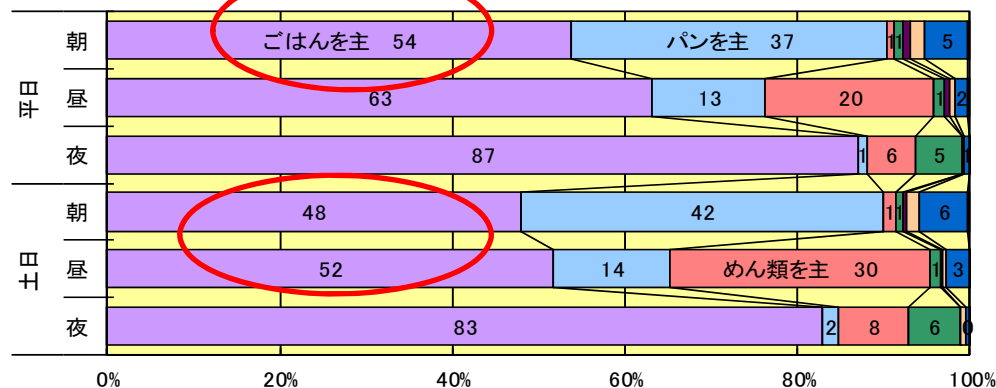
農林水産省

## 6 米消費拡大の取組 ②

### 朝食の内容と欠食の市場規模

- 朝食市場は、欠食が多い上に、ごはん食比率の低い市場。
- 若年層(20~30歳代、特に単身者)に多く見られる朝食の欠食は、**年間約56億食、総額約1.7兆円**の市場に相当。
- めざましごはんキャンペーン等の政府の取り組みが行われる中、平成21年の朝食欠食率は前年に比べ全国平均で1.2ポイント減少。

#### 食事内容の構成(平成19年)



資料:平成19年度第4回食料消費モニター調査

#### 朝食欠食の市場規模

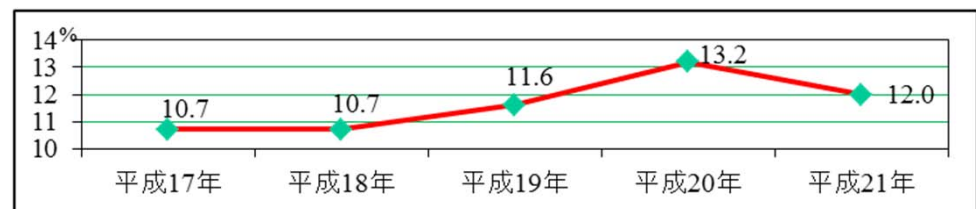
	全国平均	20歳代	30歳代	40歳代
朝食欠食率 (%)	12.0	27.6	23.2	15.5
人口(21年10月1日) (千人)	127,510	14,415	18,306	16,407
1日の欠食数 (千人)	15,301	3,979	4,247	2,543
年間欠食数 (億食)	56	15	16	9
市場規模 (億円)	16,800	4,400	4,700	2,800

資料:厚生労働省平成21年「国民健康・栄養調査結果の概要」

総務省人口推計(平成21年10月1日)

注:市場規模は、1食あたり300円として試算。

#### 朝食欠食率(全国平均)の推移



資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査結果の概要」

## 6 米消費拡大の取組 ③

### 米飯学校給食実施回数の新たな目標

文部科学省は、平成21年3月に米飯学校給食の新たな目標として「週3回以上」(週3回以上の地域や学校については、週4回などの目標設定を促す)を通知。

#### 学校における米飯給食の推進について

平成21年3月31日  
文部科学省スポーツ・青少年局長通知(抜粋)

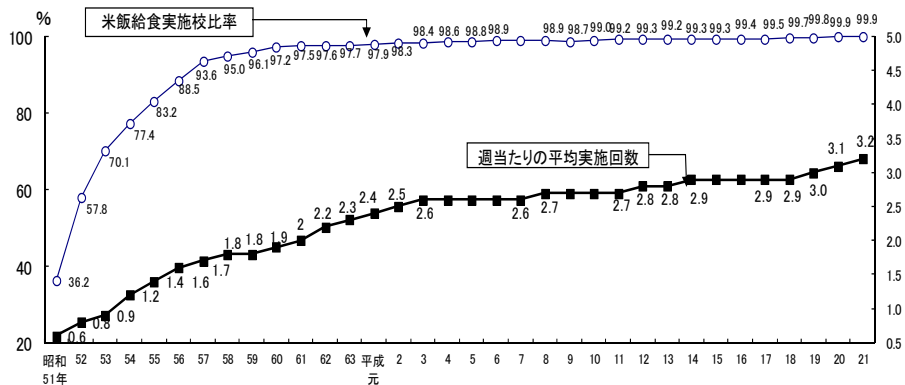
米飯給食の推進については、週3回以上を目標として推進するものとする。この場合、地場産物の活用推進の観点から、地場産の米や小麦を活用したパン給食など、地域の特性を踏まえた取組にも配慮する。

また、地域や学校の事情等により実施回数が異なっている現状にかんがみ、以下のように、地域や学校の事情等に応じた段階的、漸進的な実施回数の増加を促すこととする。

(1) 大都市等実施回数が週3回未満の地域や学校については、週3回程度への実施回数の増加を図る。

(2) 既に過半を占める週3回以上の地域や学校については、週4回程度などの新たな目標を設定し、実施回数の増加を図る。

○ 米飯学校給食実施回数の推移(平成21年度3. 2回)



出典：米飯給食実施状況調査(平成21年度調査：文部科学省)

### 農林水産省の取組

米飯学校給食は、味覚を育む子どもたちに米を中心とした「日本型食生活」の普及・定着を図る上で重要。  
農林水産省は、文部科学省と連携して、米飯学校給食を一層普及・推進。

#### 米飯学校給食情報交換会・メニュー講座及びごはんで給食先進事例等の開催

- ・大都市部(東京、大阪、神奈川、埼玉を想定)で、学校給食関係者に対して米飯給食の効用等を普及・啓発する「米飯学校給食情報交換会」、米飯給食メニューの普及を図る「メニュー講座」を開催
- ・全国各地の米飯学校給食の優良事例を、全国に紹介する「ごはんで給食先進事例」を実施

#### 政府備蓄米の無償交付

米飯学校給食を増加させようとする学校等に対し、回数の対前年度純増分全量を政府備蓄米(直近年産米)で無償交付

#### 給食関係者への要請活動

全国の農政局や農政事務所から、市町村等の学校給食関係者へ米飯学校給食の一層の推進を要請



## (参考) 米消費拡大の新たな動き(三洋電機ライスブレッドクッカー「GOPAN」について)



- 販売価格 5万円程度
- 1斤分の材料
  - ・米 220g
  - ・水 200g
  - ・グルテン 50g
  - ・ショートニング、ドライイースト他
  - ・1斤当たり148円

〔参考：米粉パン(米粉ミックス粉を使用した場合)〕  
1斤当たり 336円

### 「GOPAN」に搭載されている米パンを製造するための世界初の新技術

#### 米ペースト製法



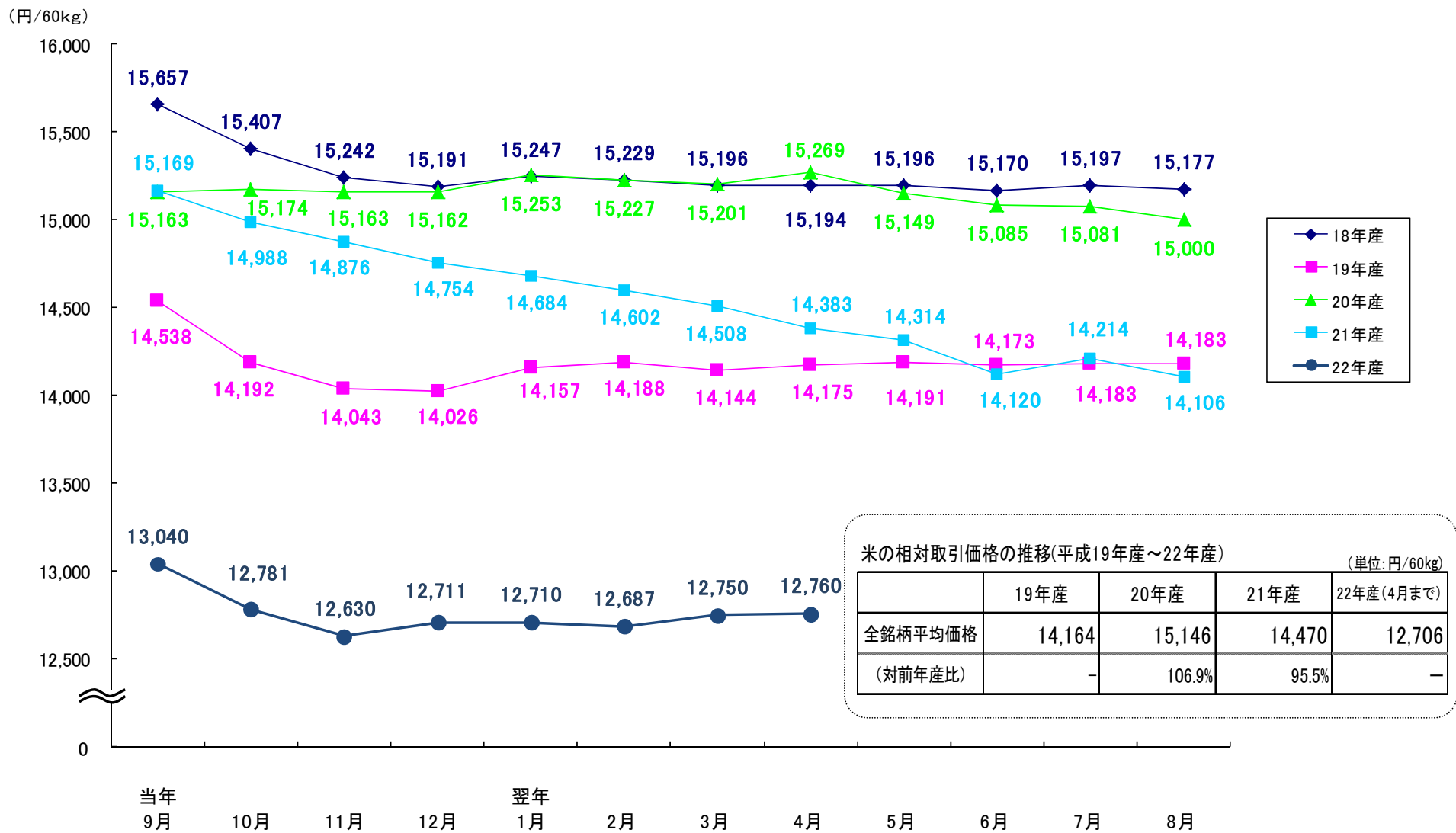
米を粉状にするのではなく、米と水を切削・攪拌し、ペースト状にして生地をつくる技術を開発

#### 正逆回転モーター機構



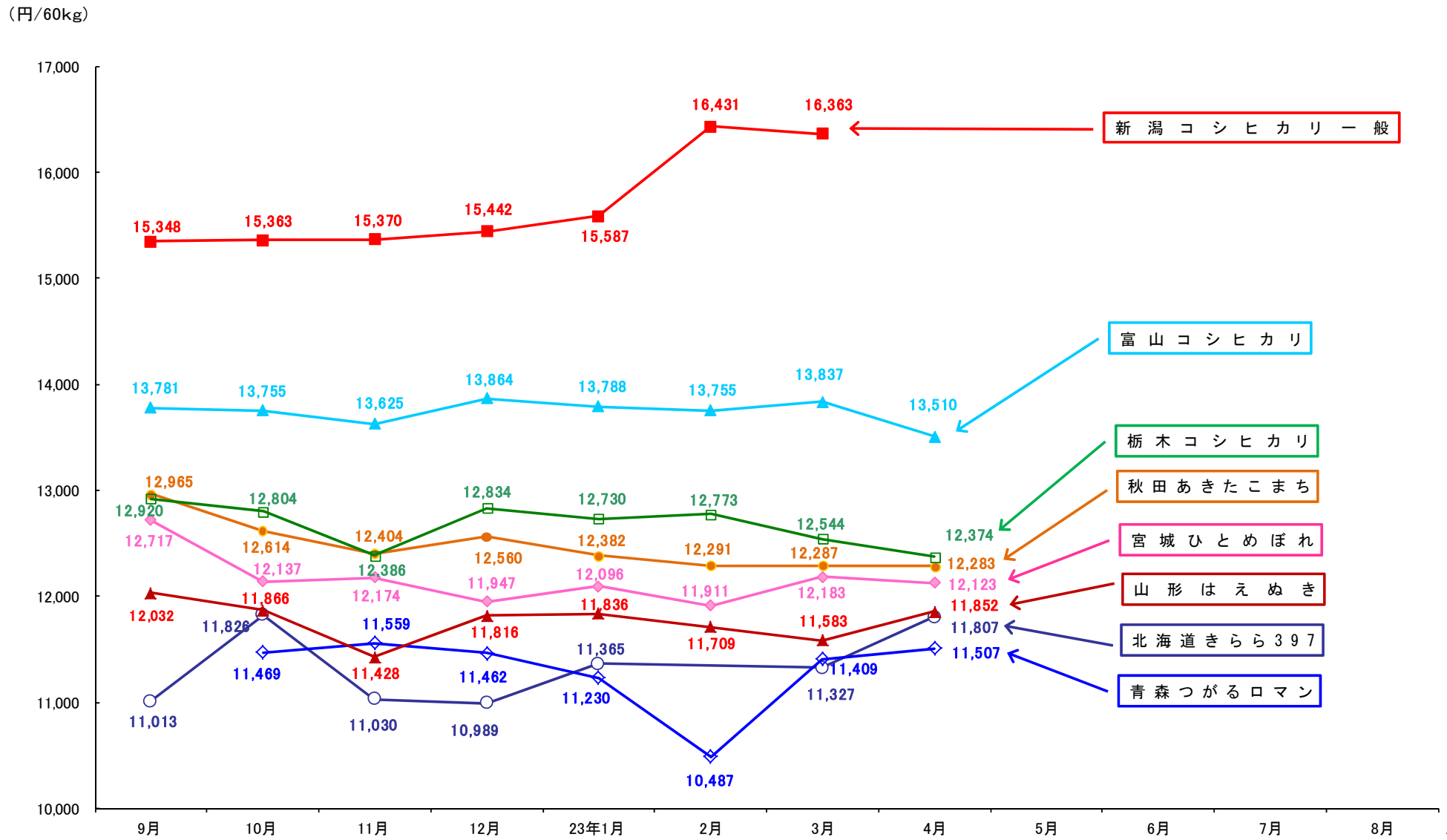
米を切削する工程、生地をこねる工程、それぞれに求められる異なる2つの回転数を1つの回転軸で実現

# 7 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移(平成18年産~22年産)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」  
 注1：価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。  
 注2：産地銘柄ごとの価格を前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

# 8 平成22年産米の相対取引価格の推移



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」  
 (注意) 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

## 9 平成22年産米の相対取引価格(出荷業者)(速報:平成23年4月)

(単位:円/玄米60kg)

産地	品種銘柄	地域区分	23年4月 ①	参考				
				23年3月 ②	対前月比 ①/②		22年4月 ③	対前年比 ①/③
北海道	きらら397		11,807	11,327	104%	13,184	90%	
北海道	ななつぼし		11,949	11,590	103%	13,189	91%	
青森	つがるロマン		11,507	11,409	101%	13,625	84%	
青森	まっしぐら		11,257	10,830	104%	13,629	83%	
岩手	ひとめぼれ		11,925	12,292	97%	14,602	82%	
岩手	あきたこまち		11,518	12,350	93%	13,627	85%	
宮城	ひとめぼれ		12,123	12,183	100%	14,627	83%	
秋田	あきたこまち		12,283	12,287	100%	14,626	84%	
山形	はえぬき		11,852	11,583	102%	13,895	85%	
福島	コシヒカリ	中通り	12,510	12,675	99%	14,057	89%	

産地	品種銘柄	地域区分	23年4月 ①	参考				
				23年3月 ②	対前月比 ①/②		22年4月 ③	対前年比 ①/③
栃木	コシヒカリ		12,374	12,544	99%	14,248	87%	
富山	コシヒカリ		13,510	13,837	98%	14,953	90%	
福井	ハナエチゼン		12,027	-	-	13,834	87%	
鳥取	ひとめぼれ		12,293	12,035	102%	13,693	90%	
広島	コシヒカリ		11,854	12,686	93%	-	-	
香川	ヒノヒカリ		11,567	11,380	102%	13,715	84%	
福岡	ヒノヒカリ		12,350	12,203	101%	14,317	86%	
佐賀	夢しずく		11,918	11,923	100%	-	-	
長崎	ヒノヒカリ		12,547	12,604	100%	-	-	
全銘柄平均価格			12,760	12,750	100%	14,383	89%	

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注:1)相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。

その際、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2)また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。

3)産地品種銘柄は、ア 21年産の公表対象産地品種銘柄が存在した道府県における当該産地品種銘柄、又は、イ ア以外の道府県における21年産の検査数量の最も多かった1品種銘柄、のうち、月1,000トン以上の取引があったものである。

4)全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5)22年4月は21年産の価格である。

# 10 平成22年産水稻うるち玄米の1等比率

○平成22年産国内産水稻うるち玄米と直近5ヶ年の1等級比率

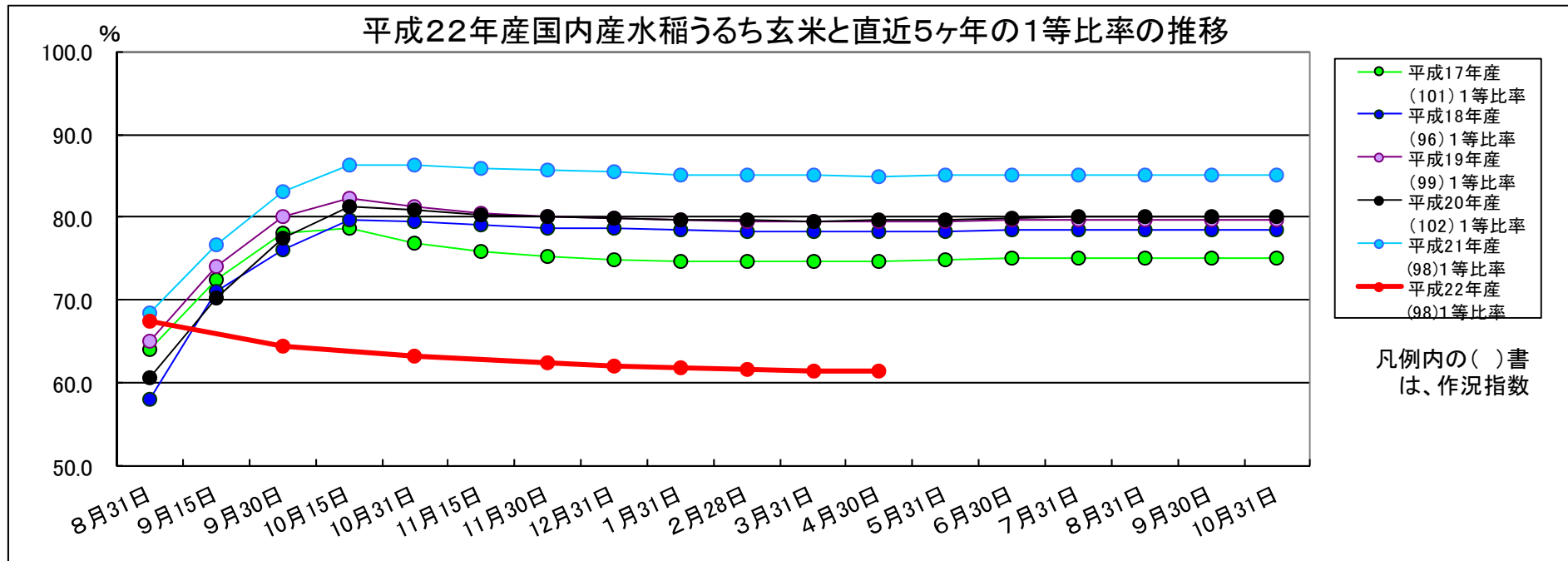
(単位:%)

	平成22年産	21年産	20年産	19年産	18年産	17年産
8月31日	67.5	68.4	60.5	65.1	58.0	64.1
9月30日	64.4	83.0	77.5	80.0	75.9	78.1
10月31日	63.1	86.4	80.8	81.2	79.5	76.8
11月30日	62.4	85.7	80.2	80.2	78.8	75.3
12月31日	61.9	85.4	79.9	79.8	78.6	74.9
1月31日	61.7	85.2	79.7	79.7	78.4	74.7
2月28日	61.6	85.1	79.6	79.5	78.3	74.6
3月31日	61.4	85.0	79.5	79.4	78.2	74.6
4月30日	61.5	85.0	79.6	79.4	78.2	74.6
最終		85.1	80.0	79.6	78.4	75.0

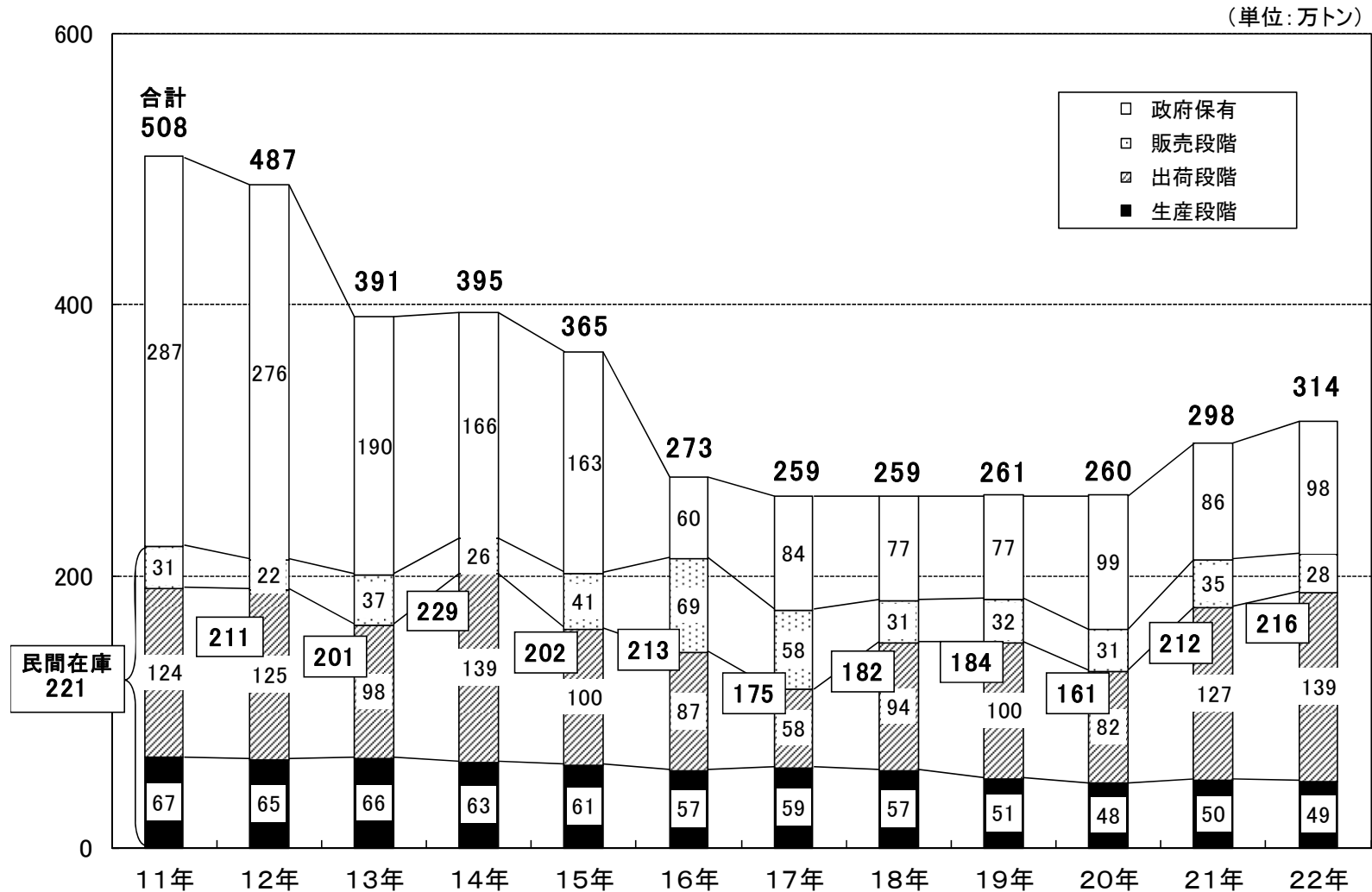
資料：農林水産省とりまとめ。

注1：「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合。

注2：「最終」は、翌年10月31日現在。



# 11 政府及び民間流通における6月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) うち玄米及びもち玄米の値である。

2) 各年の民間在庫量において、

① 16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

② 15年については、

- ・ 販売段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の旧登録卸売業者と1,000トン以上の旧登録小売業者の数量である。

- ・ 出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③ 14年以前については推計値であり、

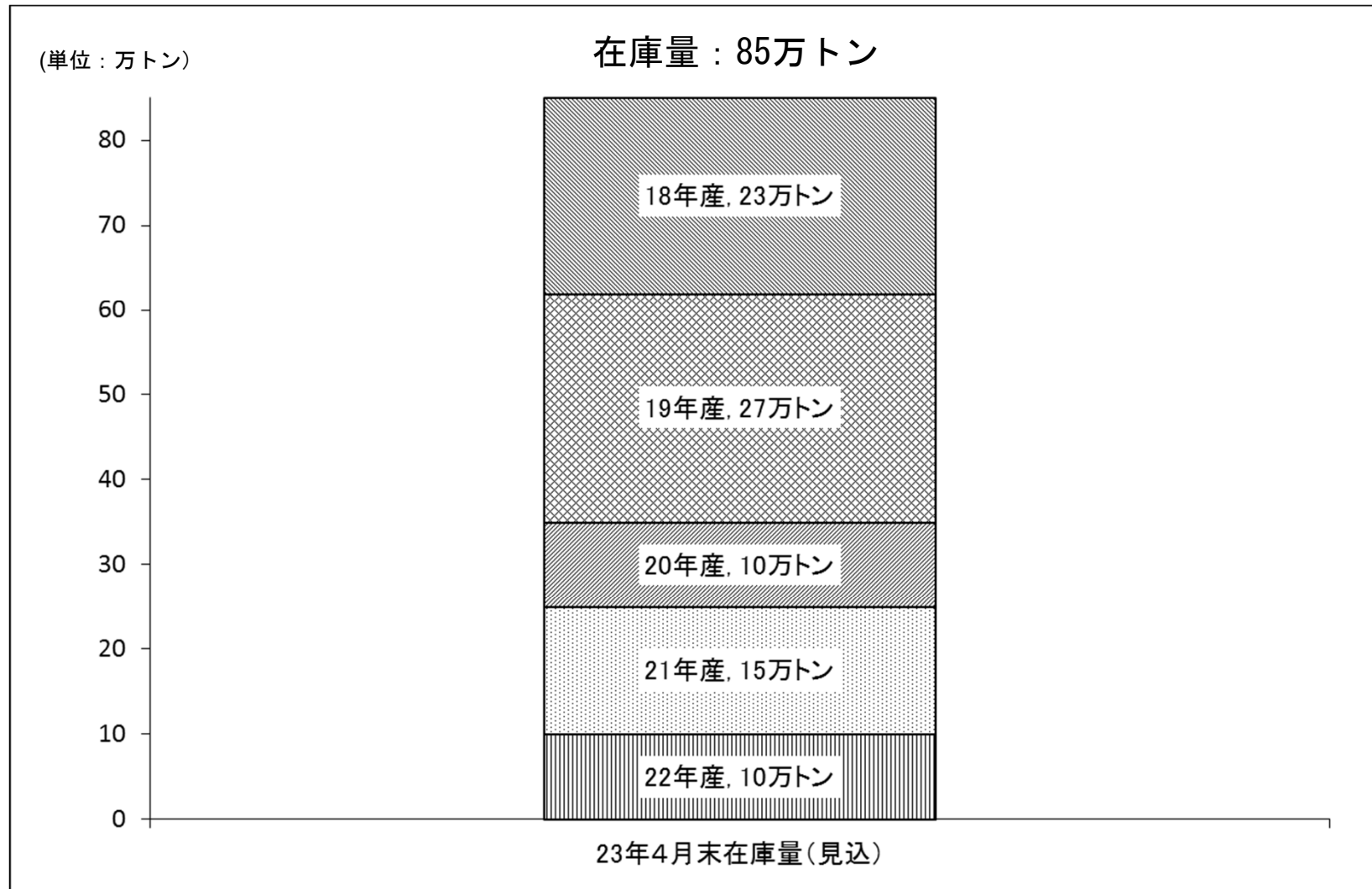
- ・ 販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

- ・ 出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

3) ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

## 12 政府備蓄米の在庫の状況(平成23年4月末現在(見込))

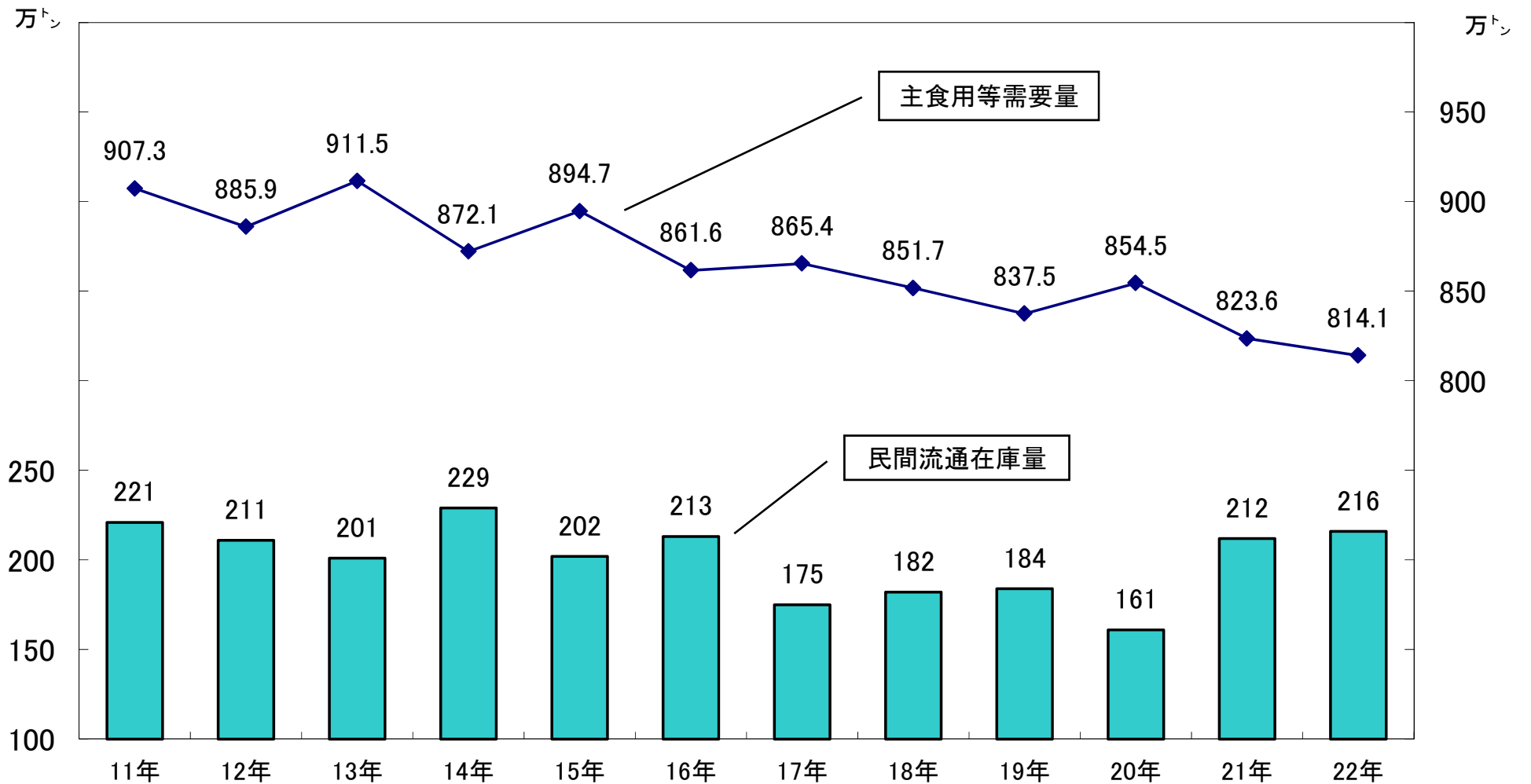


注1：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2：23年4月末在庫量(見込)は、今後地震、津波被害状況の確定により変動が生じる。

3：このほか、23年産米の事前契約分として、7万トン(5月16日第3回入札分まで)がある。

# 13 需要実績及び民間在庫の推移



資料：農林水産省調べ  
(注1) 主食用等需要量は前年7月から当年6月までの需要実績である。  
(注2) 民間流通在庫量は当年6月末現在の数値である。

## 14 政府備蓄米の主食用販売状況

### 政府備蓄米の主食用販売状況

(単位:千トン)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	-	-	-	-	3

注1：期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。

注2：販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。

## 15 棚上備蓄への円滑な移行準備

### 【趣 旨】

米の政府備蓄については、23年度からの棚上備蓄への移行が認められたところであるが、政府が保有していた17年産米(13万ト)については品質劣化(古米臭等)により主食用としての販売が見込めない状況。

このため、17年産米の22年産米への差替えを行い、23年度からの棚上備蓄への円滑な移行を図った。

### 【取組内容】

- 17年産米飼料用等売却
  - ・ 飼料用等売却数量 13万トン
- 22年産米買入
  - ・ 買入契約数量 10万トン
  - ・ 入札結果：
    - 2月 4日 第1回入札実施(落札なし)
    - 2月23日 第2回入札実施(34,520トン落札)
    - 3月 8日 第3回入札実施(66,571トン落札)

## 16 23年産米の政府備蓄米の買入(事前契約)

### 【趣 旨】

米の政府備蓄については、23年度から棚上備蓄への移行が認められたところ。農家の営農計画に反映出来るよう、事前契約により買入。

### 【取組内容】

#### ○ 棚上備蓄のしくみ

- ・ 適正備蓄水準は100万トン程度(6月末)として国内産米を一定期間(5年間程度)備蓄
- ・ 事前契約により一般競争入札で毎年20万トン買入
- ・ 不作により米が不足するときには、備蓄米を放出し、消費者への安定供給を確保
- ・ 放出を要する不足時以外は、備蓄後に飼料用等の非主食用として販売(毎年20万トン)

#### ○ 23年産米買入

- ・ 買入予定数量 20万トン
- ・ 買入対象銘柄 一般に主食用として流通している銘柄
- ・ 買 入 価 格 主食用米の価格を基本とした全国一律の予定価格の下で入札実施
- ・ 入札スケジュール

2月25日	第1回入札	( 一般枠 24,172トン落札 優先枠 29,230トン落札 )
3月14日	震災により第2回入札延期	
4月28日	第2回入札	( 一般枠 4,153トン落札 優先枠 15,477トン落札 )
5月16日	第3回入札	( 一般枠 754トン落札 優先枠 385トン落札 )
5月26日	第4回入札	
6月	第5回入札予定	

(参考) 23年産米の生産数量目標の配分に伴う激変緩和措置  
優先入札枠：60,800トン  
対 象：23年産米の生産数量目標の減少率が全国平均(▲2.2%)を超える18都道県  
入 札 方 法：優先入札枠については他の府県と競争なしに落札者を決定

## 17 過剰米対策基金(321億円)の活用

### 【趣 旨】

生産者団体等自らが、集荷円滑化対策の過剰米対策基金を活用して、主食用米を飼料用等に処理

### 【取組内容】

- ・実施主体 : (社)米穀安定供給確保支援機構
- ・対象米穀 : 平成22年産米 (1~3等が基本)
- ・処理方法 : 米穀機構が買い取り、飼料用又はバイオエタノール用に処理
- ・買取価格 : 1等米 10,500円/60kg (税別)  
(2等米、3等米はそれぞれ500円/60kgずつ格差を設定)
- ・買取数量 : 170,952トン  
(うち 全農:165,596トン、全集連:5,351トン、その他:5トン)

道府県別契約数量

(百トン)

都道府県	数量	都道府県	数量
北海道	191	滋賀県	48
青森県	131	京都府	10
岩手県	88	大阪府	—
宮城県	178	兵庫県	1
秋田県	128	奈良県	2
山形県	151	和歌山県	—
福島県	12	鳥取県	18
茨城県	27	島根県	3
栃木県	111	岡山県	19
群馬県	25	広島県	20
埼玉県	14	山口県	38
千葉県	10	徳島県	2
東京都	—	香川県	18
神奈川県	—	愛媛県	6
新潟県	53	高知県	—
富山県	45	福岡県	45
石川県	43	佐賀県	40
福井県	39	長崎県	2
山梨県	—	熊本県	48
長野県	10	大分県	28
岐阜県	32	宮崎県	16
静岡県	0	鹿児島県	16
愛知県	19	沖縄県	—
三重県	20	<b>全国計</b>	<b>1,710</b>

注1: 米穀機構が買入契約を締結した1等米から規格外米までの総数量(1等932百トン、2等619百トン、3等159百トン、規格外0.01百トン)である。

注2: ラウンドの関係で、合計と内訳は一致しない。

## 18 MA米の輸入状況

- MA米の主な輸入先国は、米国、タイ、中国など。
- 輸入方式別の数量は、近年、一般輸入米が66万玄米トン、SBS米が10万実トン。

### ○ MA米の輸入数量(輸入先国別及び輸入方式別)

(単位: 万玄米トン)

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
米国	19	23	29	32	34	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10
その他	1	1	2	2	2	2	1	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77
(うち一般輸入)	42	49	54	55	59	63	66	71
(うちSBS輸入)※	1	2	6	12	12	12	10	5

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
米国	36	36	36	36	36	43	36	36
タイ	15	19	19	18	25	27	33	35
中国	11	10	9	8	8	7	7	2
オーストラリア	9	2	2	5	-	-	-	4
その他	5	10	11	10	1	0	1	0
合計	76	77	77	77	70	77	77	77
(うち一般輸入)	65	66	66	66	59	66	66	72
(うちSBS輸入)※	10	9	10	10	10	10	10	4

※SBS輸入数量の単位は万実トン。

注1: 各年度の輸入契約数量の推移。

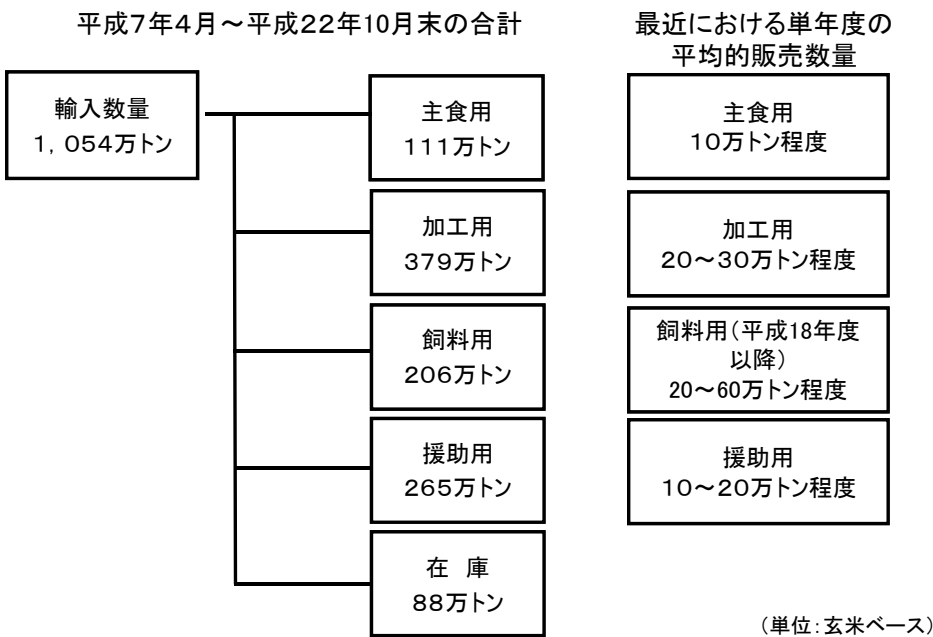
注2: 実トンと玄米トンのため合計は一致しないことがある。

(参考) MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1~0.2千トン程度

# 19 MA米の販売状況

- 国家貿易によって輸入したMA米は、価格等の面で国産米では十分に対応し難い用途(主として加工食品の原料用)を中心に販売。
- MA米に対する加工用等の需要は、その輸入数量ほど多くはないため、飼料用にも販売する他、海外への食糧援助に活用。

## ○ MA米の販売状況(平成22年10月末現在)



注1:「輸入数量」は、平成22年10月末時点の実績。また、食用不適品として処理した3万トン、バイオエタノール用へ販売した2万トンが含まれる。

注2:「主食用」は、主に外食産業などの業務用。  
(※なお、MA米輸入開始以降、その主食用販売数量の合計を大きく上回る量の国産米(合計194万トン)を、飼料用(72万トン)、援助用(122万トン)に活用。)

注3:「加工用」は、みそ、焼酎、米菓等の加工食品の原料用。

注4:「在庫」は、平成22年10月末時点の数量。

注5:在庫88万トンには、飼料用備蓄35万トンが含まれる。

## ○ MA米の販売状況(年度別)

(単位: 万玄米トン)

販売先	8 RY	9 RY	10 RY	11 RY	12 RY	13 RY	14 RY	15 RY	16 RY	17 RY	18 RY	19 RY	20 RY	21 RY	22 RY	合計
主食用	—	3	4	10	10	9	10	4	6	8	10	11	10	8	8	111
加工用	12	28	19	28	24	27	24	21	31	25	25	36	37	21	21	379
飼料用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	58	66	25	42	206
援助用	—	12	34	23	26	21	23	20	22	17	13	8	12	20	14	265
在庫	31	39	42	44	56	75	95	127	148	175	189	152	97	95	88	—

注1: RY(米穀年度)とは前年11月から当年10月までの1年間である  
(例えば22RYであれば、平成21年11月から平成22年10月まで)。

注2:この他に、食用不適品として処理した3万トン、バイオエタノール用に販売した2万トンが含まれる。

注3:四捨五入の関係で、合計と内訳が一致しない場合がある。

## ○ MA米の食糧援助への活用に応じた留意点

- ・ 途上国や国際機関からの要請を踏まえる必要
- ・ 財政負担が必要
- ・ 国際ルールとの整合性に留意:
  - ① 援助先へのコメ輸出国は、援助先への輸出減を懸念  
→ 援助するときは、国際機関等に連絡・協議する必要
  - ② MA米の輸出国は、日本市場向けに輸出  
→ 輸入品と国産品を同じように扱う必要

## 20 商業用のコメの輸出数量等の推移

- 2010年の輸出数量は1,898トン（対前年比45%増）、輸出金額は約6億9千万円（対前年比27%増）となった。
- 国別の輸出数量は、主要な輸出先である香港、シンガポールで順調に増加したほか、オーストラリア、中国、ロシア、ドイツ及びアメリカで大幅に増加した。

	2005年		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	634 (+55%)	320 (+36%)	967 (+53%)	427 (+34%)	940 (-3%)	527 (+24%)	1,294 (+34%)	641 (+50%)	1,312 (+1%)	545 (-15%)	1,898 (+45%)	691 (+27%)
香港	99	57	155	74	218	119	341	172	481 (+41%)	206 (+20%)	654 (+36%)	249 (+21%)
シンガポール	63	35	63	40	92	48	173	81	185 (+7%)	79 (-2%)	334 (+81%)	126 (+59%)
台湾	413	169	593	161	450	175	453	168	333 (-26%)	115 (-31%)	271 (-19%)	95 (-18%)
オーストラリア	0	0	0	1	1	1	22	4	36 (+64%)	10 (+138%)	125 (+247%)	32 (+217%)
中国	0	0	2	7	72	43	90	52	30 (-67%)	14 (-73%)	96 (+220%)	43 (+204%)
ロシア	0	0	0	1	4	3	63	28	10 (-84%)	4 (-87%)	52 (+420%)	14 (+287%)
ドイツ	0	0	0	4	0	4	1	5	7 (+600%)	4 (-21%)	50 (+614%)	14 (+270%)
アメリカ	16	25	128	99	41	71	26	49	17 (-35%)	28 (-42%)	39 (+129%)	25 (-10%)
イギリス	6	9	4	16	4	18	9	18	26 (+189%)	15 (-17%)	36 (+38%)	14 (-5%)
フランス	3	2	1	10	3	14	5	9	34 (+580%)	16 (+65%)	26 (-24%)	11 (-30%)
その他	34	22	21	14	55	32	111	54	153 (+38%)	54 (-1%)	215 (+41%)	69 (+29%)

資料：財務省「貿易統計」

注1：（ ）内は対前年同期増減率である。

注2：「その他」に含まれる国は、アルジェリア、オーストリア、スイスなど28ヶ国。

注3：援助用と推察されるものを除いているほか、数量は1トン未満、金額は20万円未満は計上されていない。

## 21 中国向け米輸出拡大に向けた取組

- 平成22年12月に筒井副大臣が訪中し、中国農業発展集団が米を含む日本産農林水産品などの中国への輸入拡大に積極的に努めることを内容とする覚書を締結。
- これを受けて、平成23年1月26日に中国農業発展集団が来日し、1月28日に中国輸出促進会議、1月31日に米輸出ビジネス懇談会を開催。
- また、現行の検疫条件の下でも輸出数量が拡大するよう指定精米工場及び登録くん蒸倉庫を増やすための支援を実施。

### 覚書の内容を具現化するため、ビジネス懇談会等を実施。

#### ○ 中国輸出促進会議(1月28日)

中国での日本産農林水産物の展示販売等に関して、中国農業発展集団が関係団体等に説明。

#### ○ 対中国米輸出ビジネス懇談会(1月31日)

中国への米の輸入・販売等に関して、中国農業発展集団が中国への米輸出に関心を持つ関係団体等に説明。

### 輸出拡大に向けた条件整備を実施。

- 平成22年度においては、くん蒸倉庫の登録に必要なカツオブシムシ類のトラップ調査に対して支援を実施。

(トラップ調査を実施する倉庫の所在地)

北海道：小樽市  
東北：山形県酒田市  
関東：静岡市  
北陸：新潟市  
東海：三重県四日市市  
近畿：京都府舞鶴市  
中国四国：広島県福山市  
九州：熊本市

- 平成23年度においては、指定精米工場及び登録くん蒸倉庫を増やすため、同様の支援を実施。

(トラップ調査実施予定数)

精米工場：全国で12か所程度  
くん蒸倉庫：全国で63か所程度